

令和5年度 かがやき 事業計画書

1. 法人の基本理念

- (1) 困っている人に役立つ社会福祉事業の推進
- (2) 生きる喜びを尊び、生きていく力を高める社会福祉事業の推進
- (3) 一人ひとりの可能性を広げる社会福祉事業の推進

2. 施設の基本目標

- (1) どんなに障がい重い方にも日中活動の場を保障し、他者との出会いやふれあいの中で様々な体験を重ね、本人の生きる意欲を育む。
- (2) 本人や家族の思いに心を傾け、地域の関係機関と連携し、課題の解決に結び付けていく。
- (3) 重症心身障がいの方が家庭生活を継続していく上で様々な困難さを、家族や個人のための課題とせず地域の課題として発信していく役割を担う。

3. 令和5年度事業の重点事項

- (1) 安心・安全なサービスの提供
 - ・安全管理に対する意識を高めるとともに、ヒヤリハットの収集と分析により予想されるリスクへ適切に対応し、利用者が安心・安全に活動できる環境づくりを行う。
 - ・安心して通所していただくには家族との信頼関係づくりが重要である。ここ数年のコロナ禍にて懇談の機会が減少している中でどのように連絡を密にし、気軽に不安や悩み等を相談できる関係づくりができるのか考え、利用者、家族が安心して過ごせる場となるよう、本人や家族との関係づくりに努める。
 - ・地震等の自然災害に対するマニュアルや避難計画の具体化、避難訓練を計画的に実施し、全職員が適切な対応ができるようにする。
 - ・数年のコロナ禍において自粛せざるを得なかった活動を再開していくこととなるが、重症心身障害の方は重症化するリスクも大きいことも忘れずに今後も基本的な感染症対策は継続し予防に努める。
- (2) 利用者支援の充実
 - ・看護師、療法士、生活支援員がそれぞれの専門性を十分に発揮し、利用者一人ひとりの意思や課題、ニーズをもとに、充実した生活が送れるように適切な支援内容を検討し提供する。また、定期的にモニタリングを行い、支援内容の見直しを図っていく。
 - ・活動の柱としている身体を動かすこと(リハビリテーション)、感覚を刺激すること(感覚的な運動を通しての表現活動)、地域へ積極的に出て行くこと(社会参

- 加活動)を中心に据え、健康で楽しく過ごせる環境づくりに努めるとともに、多角的なアプローチにより利用者個々の持つ可能性や意欲を引き出していきたい。
- ・療育活動については継続していくことも大切だが、新しいことを取り入れていくことも必要である。その点で療育活動がマンネリ化してきていることが課題となっている。新しいことを取り入れていくため、職員研修の充実を図り、職員一人ひとりの知識やスキルを向上させ、療育活動や利用者支援の充実につなげていく。

(3) 職員の育成と定着・さらなる充実

- ・昨年度は看護師4名が全員入れ替わる事態となり、利用者の受入人員数(1日平均利用者数)も令和3年度で19.2人、令和4年度も19.7人に留まった。本年度は看護師体制を再構築し、常勤看護師2名と非常勤看護師3名(常勤換算3.9人)での体制となるが、今後さらに人員を増やしていくことで急増している利用者の医療ニーズに応えていく。また施設としての社会的信頼を得ていく上でも、利用者の受入人員数(1日平均利用者数)を今年度は22人に増やすことを目標に取り組む。
- ・看護業務と生活支援業務においては、その役割の明確化を図り、お互いの業務を理解し協力することを目標にして一年が経った。この一年で見えてきた新たな課題などを検討していき、職員体制の構築、職員の定着に努めていきたい。
- ・働きがいのある職場、働きやすい環境づくりに努め、新しい職員が継続して働ける職場づくりを行う。
- ・研修計画を作成し、外部研修への参加、また事業所内部研修を実施する。職員個々に応じた各種研修、育成への目標等を明確にして個々の学ぶ意欲を応援する。

4. 令和5年度の取り組み事項

(1) 個別支援の充実

- ・利用者一人ひとりの個別支援計画の作成、評価、検討会議等を重ね、利用者理解を深め、適切な支援を行なう。
- ・ご家族の想いや願い、相談にも懇意に応じられるようにご家族との関係づくりにも努める。
- ・医療ケアの必要な方の新規入所、また病気の進行に伴って医療ケアが必要になってこられた方が増えてきている。そうした中で看護業務と生活支援業務の連携が一層必要になってきている。職員間のコミュニケーションを円滑に行い、チームでより良い支援を実施していく。
- ・数年来継続してきたびわこ学園「さんさん」との音楽交流がコロナ感染症の流行により中止となった。利用者、家族の音楽療法への期待感は大きく要望も多いことから昨年度は外部から音楽療法士を招いての活動を試みた。利用者の反

応も良く、普段見られない表情や行動を見られることもあり、今後も継続していきたい。

- ・障害の重症化に伴い機能低下がみられる利用者も増えてきている。特に食事は摂食嚥下機能の低下等により、経口での摂食が難しくなっている方も増えてきた。言語聴覚士による嚥下機能の評価、嚥下機能維持のためのマッサージ、生活支援員への摂食方法の指導等を行うことにより、楽しみである食事を安全に、できるだけ経口摂取を継続していけるようにしていく。

(2) 会議および研修の計画的な実施

- ・職員全員参加による職員会議を月1回およびユニット別会議を月1回以上を計画的に実施し、職員相互の研鑽、新たな取り組みへの立案、課題解決に向けた協議等について職員相互の意見を十分に交わす機会とする。
- ・毎日の職員ミーティングにおいて、業務に係る確認、課題の理解と認識など、職員相互のチームワークを固める。

(3) 地域支援の充実

- ・かがやきを地域資源の一つとして位置づけ、新規利用希望者の受け入れなど、圏域の課題である重心者の日中活動の場の保障に少しでも対応できるよう努めていく。具体的には、地域の特別支援学校を卒業する重心者の卒業後の進路先の一つとして、実習体験等を積極的に受け入れ、学校(教育)、行政(福祉)、地域のコーディネーターと共に、より適切な進路先(日中活動の場)を検討し、事業所としての提案も積極的に行っていく。
- ・生活介護事業と併せて、短期入所サービスや居宅介護サービス、日中一時支援サービスを併用して生活の組み立てをされている利用者も多いことから、他のサービス担当職員との一層の連携を図り、一体的な支援の提供に努める。

(4) 事故防止対策の充実

- ・職員個々の気づきが事故の防止につながることを確認し、事故が起きやすい場面を想定して、ヒヤリハットや危険予知に対する研修会を定期的に設ける。
- ・発生した事故の分析と具体的な対策について共有化を図り、環境の改善と事故の再発防止に努める。
- ・介護や介護技術のマニュアルを見直しと整備をする。

(5) 防災、防犯対策の充実

- ・防災訓練、防犯訓練を定期的実施する。
- ・防災への備え(備蓄倉庫、防災設備等)の確認と実施する。
- ・電源喪失時の医療機器等の対応訓練を実施する。
- ・災害対策マニュアルの見直しと整備をする

(6) 職員の定着と育成

- ・施設外研修への職員の参加機会が増えるように配慮していく。また、施設内研修の機会を増やし、職員のスキルアップを図るとともにやりがいのある職場づくりを目指していく。

- ・入職希望者には主任を中心に業務内容等の説明を丁寧に行い、悩みや相談を話しやすい環境、働きやすい環境づくりに努める。
- ・職員満足度調査等を実施し、職場の良い点や改善が必要な点を把握して、働きやすく魅力的な職場づくりにつなげる